

◇ 新年のご挨拶 ◇

全日本写真連盟 関西本部長
全日本写真連盟 大阪府本部長
中田 徹

昨年は「AI（人工知能）」という言葉が身の回りにあふれました。まだまだ実感はないのですが、今後急激に社会を変えるといわれています。

ご存じのように写真分野も例外ではなく、自動生成された画像をリアルな写真と見分けるのは今後ますます困難になることが予想されます。こんなときいつもの「写真とは」という疑問が浮かぶのと同時に、安易な定義づけでどこか安心したい気持ちもあります。

30年ほど前でしょうか、フィルムからデジタルへの移行期にも似たような議論があったと記憶しています。デジタル写真は撮影後の画像補正や加工処理が自在のため「写真」と定義づけるにはその線引きがどこにあるのか、どこまでが許されるのか、などなど。カメラの画質や撮影機能は飛躍的に向上し、そのスピードに我々の認識が追いつかないまま流されている感もあります。

生成AIは元画像も必要としません。頭に浮かんだテキストで呪文のように指示するだけで瞬時に何パターンもの画像を提示してきます。そればかりか写真批評家になりきっての作品の講評、アドバイスも得意です。自分の写真で試したところ、ほぼ破綻のない適格な回答で驚かされました。

写真だけでなく音楽、文学、絵画などあらゆる創作分野で定義があいまいになっていくでしょう。「写真」と呼べる理由は何なのか。結論は急がずも、少しばかりの対抗心を持ってこの一年考えていきたいと思えます。

「2024 支部選抜作品展」
開催のご案内

隔年毎に開催しております支部選抜作品展を、下記の通り2024年8月に実施いたしますのでお知らせいたします。

近々、支部長宛に参加申込みのご案内を送付いたしますので、奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

展示会期：2024年8月中旬（日程未定）

展示会場：富士フィルムフォトサロン大阪
スペース2

概要：

- ① 1支部 2点（全日本写真連盟会員に限る）
- ② テーマは自由（未発表作品に限る）
- ③ 参加費用 1支部10,000円／2点
作品展示のみの開催です。

< フォトセミナー ご報告 >

本年のフォトセミナーも山本学先生（写真家）を講師にお願いして、9月18日から10月21日にかけて撮影会2回、セミナー3回で実施しました。参加者は23名でした。

第1回目のセミナー（午前）では、写真撮影の基本となる構図、レンズによる表現方法および適正露出の決め方などの講義を受けました。

午後からは京都府八幡市で彼岸花の撮影を予定していましたが、今夏の猛暑で花芽が見られなかったことで急遽神戸王子動物園に変更しました。

第2回目の撮影会は尼崎センタープールでの撮影会でした。シャッタースピードを変化させた目の前を通過するボートレースの流し撮り、ターンマークでの迫力のあるボートと水飛沫などの撮影を楽しみました。

それぞれの撮影会での作品（3点）を撮影後のセミナーでデータを持ち込み、講師から作品の講評やアドバイスをいただきました。

来年もフォトセミナーを計画しますのでご参加いただきますようお願いいたします。

全日本 シニア写真コンテスト 審査結果発表

総評

コロナも落ちついたとはいえまだまだ油断できませんね。しかしマスクの写真はほぼなく、時代は変化し続けています。祭りのパワーとか公園での何気ない平和な光景など明るい方向に憧れを持っているように感じました。写真とはそうした時代と共に移り変わる作者の感情が敏感に反映されています。

抜きんでた一枚というより、感情にグッとくる写真がありました。

上位につきましては、金賞の写真は病院でリハビリ中に撮られたものです。それは私達が避けては通れないひとつのシーンでもあります。お父様のお誕生日に娘さんが楽器を吹いてお祝いをしています。お父様はお孫さんの笑顔がプリントされたTシャツを着せてもらい嬉しそうにも見えます。

そこには精一杯の幸せを願う家族の絆が見て取れます。非常に重たいテーマですが、幸せな事ばかりではない現実社会を記録するのも写真の重要な役割です。

また、お祭りを必死に守ろうとしているシニア世代の姿や、お祭りの最高潮ではなく終了後の解体作業をしている場面などにも目を向けています。このような写真家の冷静な眼差しも賞賛すべきところです。

このコンテストは今回をもって終了とお聞きしました、私は10年近く当コンテストの審査委員長を務めさせて頂き、多くの優れた写真を拝見しながら他の審査委員の方々と合議が出来たことに感謝致します。

シニア世代はこれからも写真を続けてほしいと願う一方で、若い方へ写真の魅力を伝えるために新たなかたちでの発展を願っています。

(審査委員長 ハービー・山口)

ここでは大阪府在住者のみのお名前をお知らせします。

○金賞 「誕生日の思い出」今川美佐子
(大阪市)

○銀賞 「退屈やなあ〜。」東 千佐子
(枚方市)

○銅賞 「解体」岡村明敏(枚方市)

○入選 (大阪府本部会員のみ)

「天空への行列」中原美佐枝(大阪市)、「路地の子ら」守實直之(豊中市)、「黄昏飛行」筒井利枝子(吹田市)、「永い航路」大塚雅則(吹田市)、「粹なバーテンダー」山本芳子(高槻市)、「初めてのお祭」南野憲二(八尾市)、「休日」平野三郎(富田林市)



「永い航路」大塚雅則



「初めてのお祭」南野憲二

読者の広場

<写団清朋作品展>

【船出写真倶楽部 高橋秀夫 大きい口】



おちょぼ口がもてはやされた昭和は遠くなり、今や大きい口が人の魅力を増す時代になっています。

嵐山の喧騒から離れた奥嵯峨に千二百体の羅漢寺があります。さまざまな羅漢さんの表情に癒されながら、大きい口を見つけました。

若狭に旅したとき、偶然見つけた岩窟です。大きさを表現するため、網を持った少年が近づくのを待ってシャッターを切りました。

こうして人工と自然の大きい口を組むことができました。

全日本写真連盟の会員になって22年、かつては祭やイベントのスナップに走り回っていましたが、今は美しい蝶（いきものフォト支部）や自然・乗り物風景や光跡夜景を静かに撮っています。

●会員継続手続きのお願い

1月から2024年度会員継続の手続きが開始され、フォトアサヒに「振込票」が同封されています。「氏名、金額、振込先加入者名、口座番号」が印刷されたこの「振込票」で郵便局/銀行/コンビニなどから（コンビニが便利です）継続会費納入のほどお願い申し上げます。

<フォトクラブ707展>

【フォトクラブ707 福田俊勝 砂丘の宿の夕べ】



2019年2月モロッコ王国のメルズーガ砂丘にあるレストラン兼宿での3枚組写真の内の1枚です。

サハラ砂漠に日が落ちる頃宿泊客がやって来ました。暮れかけた空に月と一番星が出、やがて満天の星空になります。昼も夜も雲のないカラカラの世界です。

翌早朝に宿を出、ラクダに乗るか徒歩で砂丘に入り日の出を見ます。気温は10℃以下になりとても寒い。

何もいないと思われる砂丘ですが、ラクダの糞を食べるフンコロガシが走り回ります。

＜大阪写友会写真展＞
【大阪写友会 松尾茂嗣 美章園高架下】
・・・展覧会では6枚組み



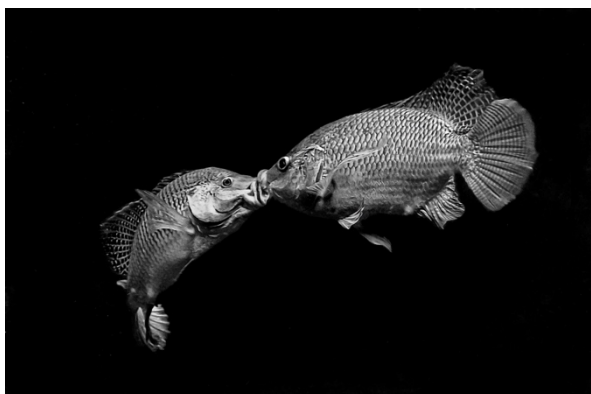
J R阪和線で天王寺からひと駅、美章園駅の高架下の天王寺寄りには古い飲食店や商店が連なっています。

面白いのは、和歌山へ向かう高架下で、空き家が多く壁面の落書きなどが良い被写体になります。中には巨大な壁画もあり、行くたびに新しいものが発見できます。

ここも、神戸元町のように耐震化工事が行われたら、いまの雰囲気も無くなってしまおうでしょう。今のうちに記録しておきたいです。

＜第21回全日本動物写真コンテスト＞
結果発表

- ・大阪府本部会員の入賞者
一般部門準優秀賞「安心してください」
落ち着いたますヨ」長原恭子
- 一般部門入選「らぶ・ラブ・LOVE」上原弘士



写真展のご案内

第2回フォトくらぶ令和展

2月23日（金）～2月29日（木）

富士フイルムフォトサロン大阪

-----第80回朝日写真展 作品募集-----

締切日：2024年1月31日（水）消印有効
詳細は全日本写真連盟HP、チラシをご覧ください

○全日写連大阪府本部ホームページ



全日本写真連盟 大阪府本部事務局

〒530-0005 大阪市北区中之島 2-3-18

中之島フェスティバルタワー15F

Tel 06-6201-8006 Fax 06-6201-0285

メール: nissyaren@osaka.email.ne.jp